

# 令和3年度 山梨県立やまびこ支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	地域・家庭と連携し、自立と社会参加を目指すため、個々の実態に即した指導を通し、主体性をもって生きる心豊かな人間を育てる。
-----------	--

山梨県立やまびこ支援学校校長 小林 勝

本年度の重点目標	1 個に応じた知識・技能の習得と基本的な生活習慣の確立
	2 自ら考え、判断し、表現する力の育成
	3 自ら学ぶ意欲姿勢、よりよく社会と関わりながら生きる人間性の涵養
	4 健やかな心と体の育成

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(1月14日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	・一人一人の基礎学力と基本的な生活習慣の確立を図るとともに、各学部間での連携や専門家活用をより一層推進することで、確かな学力と生きる力を育む。	家庭と連携し、基本的な生活習慣を身に着けさせる指導を、学校の教育活動全体を通じて推進する。	学校評価アンケート 学部取組評価
		「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」について、教員相互および保護者との共通理解を深め、児童生徒に何を身に着けさせるかを明確にすることで、教育活動の充実を図る。	個別の指導計画等の活用と評価 学校評価アンケート 学部分掌取組評価
		児童生徒の障害や発達に応じて、心理士等の専門家活用を推進するとともに、OTの活用、ICTなどの情報機器の効果的な活用を進める。	学校評価アンケート 学部取組評価 専門家活用 ICTの活用
2	・主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、教育内容や指導方法、評価方法の工夫改善に努め、これからの時代に求められる資質能力の育成を図る。	新学習指導要領に基づく授業計画の実施と検証を行い、教員相互の共通理解を図るとともに、その趣旨を踏まえた教育課程の編成と実施、小・中・高、縦のつながりを意識した系統性のある指導内容の工夫改善を図る。	学校評価アンケート 教育課程委員会の成果 相互授業参観
		校内研究や各種研修会の充実を図り、指導内容や指導方法、評価方法の研究を深めることで、授業改善をより一層進めるとともに、個々の教員の専門性、資質能力の向上を図る。	学校評価アンケート 校内研究取組評価 研修会への参加状況 教員研修ポートフォリオ
3	・豊かな心の育成を目指し、地域や家庭との連携、校種を越えた多様な連携により、社会性や人間性、主体的に学ぶ態度を育成する。 ・社会とのつながりを意識し、自立と社会参加に向けたキャリア教育、進路学習を推進する。	児童生徒の活動やがんばりを、ホームページや学校だより等を通じて積極的に外部に発信し、保護者や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	学校評価アンケート HPのアクセス数 学部分掌取組評価
		桂台地区の住民の方々との交流や新たな地域資源、人材活用の開発を進めるとともに、ICTを用いた様々な形態での豊かな体験学習、交流及び共同学習の充実を図る。	学校評価アンケート 交流・共同学習の取組 校外学習の成果
		個別の教育支援計画を活用し、関係機関との連携を図り、キャリア教育や進路指導の充実を図る。	学校評価アンケート キャリアパスポート 学部分掌取組評価
4	・個に応じた心身の健康の保持増進を図るとともに、食育を推進し、主体的に運動に親しむ態度を育てる。 ・安全管理体制を充実させるとともに、児童生徒の主体的な安全意識の定着と深化を目指す。	運動に親しむ機会を増やし、基本的な身体機能を高めるとともに、食育や保健指導とあわせて、個に応じた体力・健康の保持増進を図る。	学校評価アンケート スポーツテスト結果 学部分掌取組評価
		学校安全計画や危機管理マニュアルの一層の整備充実を図るとともに、実践的な避難訓練、緊急時対応訓練を実施し、安全管理体制を確立する。また、自らの身は自ら守るという意識を児童生徒に持たせ、安全教育の充実を図る。防災における地域連携についても引き続き検討を進める。	学校評価アンケート 避難訓練の実施反省 学部分掌取組評価

学校関係者評価	
実施日 (令和4年2月2日)	
評価	意見・要望等
4	・保護者とともに児童生徒のニーズに合った個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成を行うとともに、計画が達成できるようにお願いしたい。コロナ禍ではあるが対面指導を重視しながら、リモート授業の工夫を一層進めて欲しい。 ・リモート授業の良さを探り、リモート授業の児童生徒の活動で個々の児童生徒ができるようになったことや達成できたことを検証し、「自己表現ができるようになった」という評価が報告されたような事例を増やして行って欲しい。 ・教職員の研修による専門性の強化や専門家の活用による指導の充実は評価できる点だと考える。今後も一層の努力を期待している。
3	・研究・研修の場が制限される中で新学習指導要領の内容の理解を深めることは難しかったと思われる。各教員が新学習指導要領で求められている児童生徒の力についての学びを継続してほしい。 ・特別支援教育における主体的、対話的な学びがどのようなものか全教職員の認識を一致させることを進めて行って欲しい。 ・全教職員でテーマを掲げ校内研究に取り組んでいることは素晴らしい。一人一人の教職員が力量をつけることが子供たちへのよりよい教育につながるので、さらに資質向上に努めて欲しい。 ・新様式の指導計画や通知表が整えられたことは大きな成果である。今後は日々の実践から立ち返り改善と評価を丁寧に進めて欲しい。 ・コロナ禍に加え新課程への移行や研究で先生方の負担が増したのではと感じます。
3	・交流で生まれる感動や喜びは実際の場面でしか味わえないものかもしれないが、非接触型の取り組みの中でも得られるものは多く、そこを評価していくことが大切である。 ・行事等も今までの代替えではなく姿形を変えて学校文化の一つとなっていくことを願う。 ・ホームページ等での細かな情報発信で保護者や地域の方々との連携が深まり、開かれた学校づくりができたと思う。 ・コロナ禍のような感染症蔓延を前提とした交流活動や共同学習を模索して欲しい。 ・2学期を中心に学校行事や児童生徒会行事等ができたことは子供たちにとって大変良かったと思います。 ・高等部の生徒にとって自立としてのキャリア教育は切実な問題だと考える。小学部の頃から少しずつ進学・進路についての意識を高めて行って欲しい。また、高等部卒業後の就業場所の確保が喫緊の課題である。学校だけでは解決することは難しく、行政の力強い施策が必要だと感じる。 ・コロナ禍において、社会とのつながりや人とのつながりが制限され、目標の達成が困難だったと感じます。
4	・個に応じた丁寧な細やかな健康管理・保健指導・安全指導が行われていると思います。 ・コロナ禍における安全管理と健康維持増進について工夫して取り組み、次年度に向けての課題を整理して一層の前進をお願いしたい。 ・安全教育は机上ではなく実践がどうしても必要だが、コロナ禍の中での実践は難しかったと思われる。地域と連携しながら児童生徒の安全確保の努力をして欲しい。 ・健康への侵害が著しいコロナ感染症について、実体験を通して学ぶ機会にもなったと考えます。

留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2) 学校関係者評価については、年度当初に本年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。